

佐呂間小学校と佐呂間町教育委員会が、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の研究協力機関になりました

このたび、佐呂間小学校と佐呂間町教育委員会は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の研究協力機関となりました。

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所は、我が国の特別支援教育のナショナルセンターとして設置され、特別支援教育に関する研究のうち、主として実際的な研究を総合的に行い、及び特別支援教育関係職員に対する専門的、技術的な研修を行うこと等により、特別支援教育の振興を図ることを目的としています。

今回研究協力機関として採択されたテーマは、「共生社会の担い手を育む教育に関する研究－障害理解教育の検討を中心に－」です。共生社会の形成に向け、子どもたちが10年後、20年後に共生社会の担い手となるための教育活動を展開する必要があります。そのため、本研究において、多様性を理解し尊重できるようになるための教育、つまり、共生社会の担い手を育む教育について、現在、学校で実施されている障害理解教育に関する情報収集と検討に協力することを中心としつつ、具体的な内容、方法を検討し、全国の教育現場に提供することを目的として研究に協力します。日常の授業や学級経営において行われている多様性を尊重し理解するための実践についても協力します。

その上で、教育現場での配慮事項等を勘案した概念モデルの作成、その妥当性の検討、更には、学習指導要領(全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省が各学校における教育課程(カリキュラム)を編成する際の基準を定めたもの。)における障害理解の記載の在り方の提案に協力します。

研究協力期間は、令和5年度から令和7年度までの3年間であり、青山新吾先生(ノートルダム清心女子大学)や杉浦徹先生(東北福祉大学)をはじめとする研究者等とも一緒に研究を進めていきます。